



## 目次

●ーあいさつー	2
●ー活動報告ー	4
●ー職場紹介ー 「緩和ケア病棟」「地域包括ケア病棟」	6
●ー活動報告ー	8
●ー新任医師紹介ー	11
●ー新入職員紹介ー	11
●ーアクセスのご案内ー	12

## あいさつ



鹿児島市医師会病院  
医療連携・相談室室長 前 昌 和 子

平成25年度に医療連携相談室に配属となり、3年が経過しました。その頃より当院の医療体制や病床機能にも変化がみられ、周囲の環境も大きく変わりました。

鹿児島市も少子高齢化と人口減少に伴い、医療提供体制の再構築が求められています。(図1)今年1月に開催された地域医療連携委員会主催の講演会の中で、松田晋哉先生が「現在の病院は、何がしたいではなく、何を求められているかを考えていく必要がある。これからは連携室の役割が重要だ。」と言われた事を思い出し、医師会病院医療連携相談室として、どのような役割を果たせばよいのか、重積を痛感しています。現状では、医師会病院の理念である「会員や地域の医療ニーズに応える」という事を念頭に、私達の仕事を精一杯行っていくしかないと考えています。

平成28年度は、昨年より取り組んでいた退院支援システムの構築と運用に力を入れ、5月より退院支援加算1を算定する事が出来ました。(図3)退院支援システムを円滑に運用するため、院内での説明会も2回ほど行いました。退院支援に関係する相談内容も多く、平成23年度から平成28年12月末までの医療連携相談室の業務件数を見ると、平成26年度から転院支援と退院支援が逆転しています。(図4)以前なら自宅療養が難しい患者様は、転院する事が多かったのですが、現在で

はほとんどの患者様が、自宅や居宅系施設へ退院される状況となっております。

退院支援システムを運用することで、様々な事が明確になりました。1月末の入院患者総数の約54.6%が退院支援困難者として抽出され、抽出患者様の52.1%が後期高齢者でした。15.6%が独居で、10.4%の患者様に認知症を認めました。介護保険認定申請済みの患者様は45%で、その中の23.7%は区分変更が必要でした。多くの居宅介護支援事業所や地域包括センターの介護支援専門員の方に協力を頂きました。また14.3%の患者様が、医療処置を必要とし、6.6%の患者様に訪問診療、7.5%に訪問看護の介入をお願いしました。退院支援困難者として抽出された61.6%に、医療連携相談室の看護師・MSWが介入する事ができました。(図2)

医師会病院は、平成25年9月に緩和ケア病棟、平成26年11月に地域包括ケア病棟と病床機能が一部変更となりました。両病棟ともに医療連携相談室が窓口となり、院外からの患者様の受け入れ調整を行っています。平成27年度からは、在宅医療を支える後方支援病院として、事前に患者様の情報を登録し、緊急時円滑に受け入れられるような機能も担うようになりました。登録患者数は188名、登録施設が19施設となっております。かかりつけ医からの登録を待つばかりでなく、医療連携相談室が積極的に介入していきたいと考えております。当院医療連携相談室は、医療と介護を結ぶ部署でもあるため、居宅介護支援事業所・介護施設・地域包括センター等からのご相談も受けておりますので、ご連絡下さい。

来年度は、平成30年医療と介護の同時改定を見据えた研修会や取り組みが出来るよう努力して参ります。

図1 平成29年1月6日鹿児島市医師会病院地域連携委員会研修会資料より（松田晋哉先生）

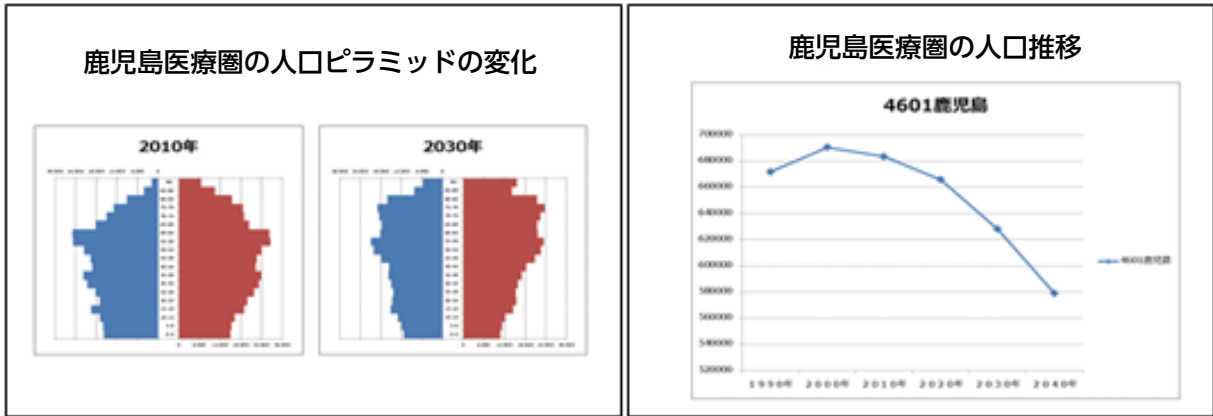


図2

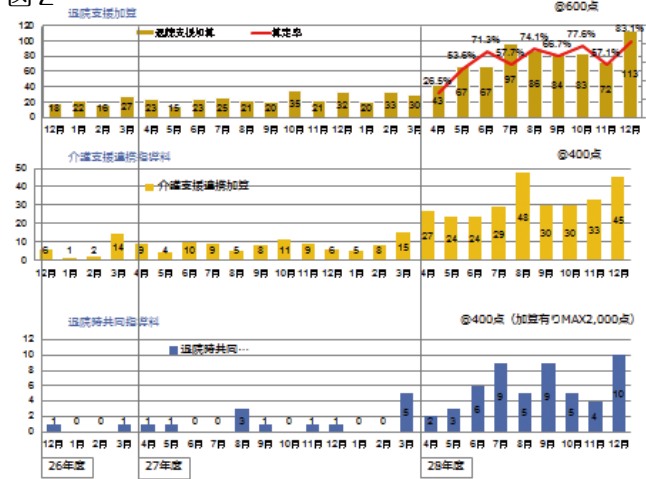


図3 退院支援流れ

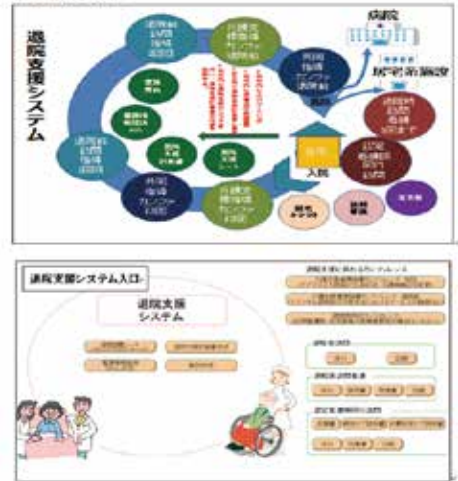
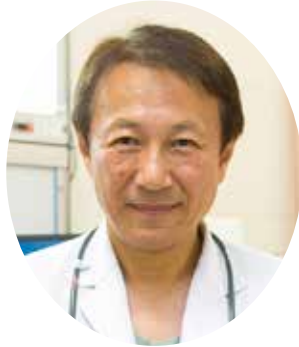


図4 平成24年～平成28年12月31日現在

	H.24年度	H.25年度	H.26年度	H.27年度	H28年度
在宅支援	357	844	1578	2580	3775
転院支援	1152	1640	1062	1020	621
受診相談	320	811	775	425	189
入院に関する相談	65	180	327	437	245
医療費	885	910	1246	1055	524
生活保護制度	12	6	7	18	5
年金制度	1	3	2	4	0
書類関係	154	313	646	596	430
福祉サービス	194	246	193	184	75
連絡調整	354	169	381	408	514
施設訪問					122
その他	255	867	1208	1557	913
計	3749	5989	7425	8284	7894

## 活動報告

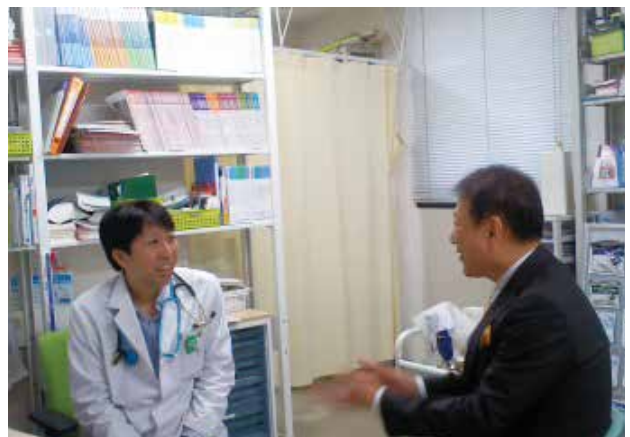
### － 会員施設等訪問について －



鹿児島市医師会病院  
副院長 鳥居博行

平成28年6月15日から1週間に1回副院長就任の挨拶も兼ねて事務部より指示のありました先生方の御施設を前島医療連携相談室室長と一緒に訪問させて頂きました。ご多忙中にも関わらず時間を割いて話を聞いて下さり、またなかには施設内の案内までして下さい有り難うございました。なにより現在の医師会病院の現状を知って頂くことが出来ました。また急患の対応が悪かったことに関しましては謝罪させて頂きました。訪問させて頂きました御施設からは患者様を早速ご紹介頂きました。やはり顔を見てお話しすると違うものだと今更ながら感心いたしました。まだまだ沢山の施設にも訪問させて頂きたかったのですが、寒くなり急患の多い時期になってきました。施設訪問のために急患対応が出来

なくなってしまうとは本末転倒です。また機会があれば出来るだけ多くの御施設の訪問をさせて頂きたいと思います。その際は何卒よろしくお願ひ申し上げます。医師会病院の経営状態は昨年度に比べましたら今年度は改善しておりますが、経常利益が出るまでにはまだまだです（所謂キャッシュフローでキャッシュアウトは無くなるくらいには改善しております）。来年度は経常収支でわずかでも黒字を出そうという大きな目標があります。目標の達成には会員の先生方の一層のご支援なくては成し得ません。先生方に置かれましては益々のご指導・ご鞭撻何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## — 会員施設等訪問について —



鹿児島市医師会病院  
外科部長 石崎直樹

会員の皆様には、日頃より患者様のご紹介いただきありがとうございます。ここ数年、当院では、入院患者の減少とそれによる経営悪化が続き、このままでは病院存在そのものも立ち行かないと危機感を持ち、この一年さまざまな経営改善策に取り組んでいます。

現在私達が消化器外科として、取り組んでいることについて述べたいと思います。

麻酔科医減員の現状では、時間外即緊急手術となるような急患対応が難しいため、一旦受け入れ、準緊急の場合は麻酔科と相談の上手術予定を入れ、手術症例の流出予防に努めています。また、消化器内科医不足の現状では、消化器内科が入院患者を受け入れる事が難しい為、閉塞性黄疸や緊急内視鏡検査を要しない消化管出血などはまず外科で受け入れ、検査は消化器内科で実施するような協力体制をとっております。特に閉塞性黄疸で発症する、膵頭部領域の悪性疾患（膵癌、胆管癌、乳頭部癌）の手術症例が減少しておりますので、是

非外科にご相談頂ければと思います。当病院には、膵頭部領域の悪性疾患手術・術後管理において、経験豊富な医療スタッフや若くやる気のある医師も多くおります。近々大学医局より消化器内科医の派遣も得られそうで、今後は常勤医の負担軽減となり、柔軟な急患対応が可能になると期待しているところです。

最近の当院を取り巻く環境から、患者集客力の低下が著しい状況です。他施設の努力により会員の先生方の紹介状況に変化がみられていると思われます。そこで昨年10月より会員施設訪問を始めました。昨年末時点で、43件（谷山中山地区、松元、小山田、郡山地区、荒田、鴨池地区など）訪問しております。厳しいご指摘もありますが、好意的に対応して頂き感謝しております。

以上のような取り組みはもとより、内外の環境変化に柔軟に対応し急患を断ることなく、会員・地域のニーズに応えることができれば、紹介は増えるものと考えております。実際、この一年あまりの努力で、入院患者増加・病床稼働率向上にて経営改善の兆しがみられます。しかし、まだまだ努力不足の感が否めません。今後も空いた時間があれば、会員施設の訪問を続け、先生方の率直な忌憚のないお言葉、ご叱責を頂きたいと思います。今後とも連携室ともども宜しくお願い致します。

## 職場紹介

### 緩和ケア病棟：第1回目のコスモス会を開催しました

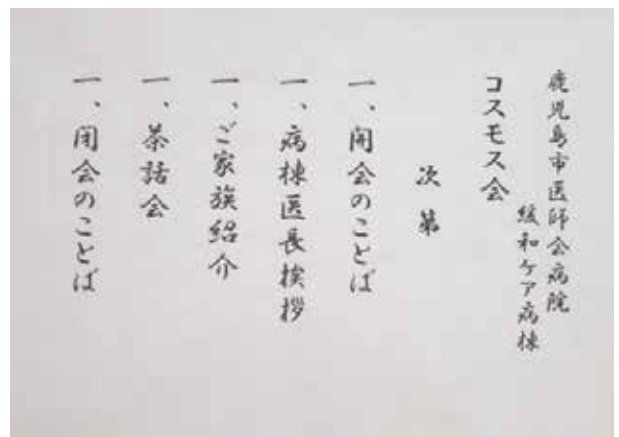


緩和ケア病棟 師長 前園 裕子

平成28年10月29日（土）緩和ケア病棟開設後、初めての遺族会をコスモス会という名称で開催しました。当院の緩和ケア病棟では、亡くなられた患者様ご家族へ、退院3ヶ月後に入院中の患者様のお言葉や患者様との思い出話などをお手紙にして、送っています。遺族会もこのグリーフケアの一貫として開催しました。月平均15名前後の患者様が死亡退院されます。今回は死亡退院された方のご家族105家族を対象に連絡したところ、当日は15家族22名の方にご出席いただきました。

私達、病棟スタッフも初めての遺族会開催のため、他施設の遺族会を見学したり、ご遺族への連絡、会の流れや段取りなど、遺族会主催チームが中心となり、何度も話し合いを重ねりハールサルを行い準備をすすめました。

当日は、私達も緊張しているなか、初めての会が滞りなく行われることを祈りました。会が始まると、久しぶりにお会いしたご家族との談話がはずみ、故人をなつかしみ涙を流しながら語り合う場面もありましたが、とても心地よく温かい会となり、コスモス会を開催できたこと



に参加したスタッフ1人1人が、とてもうれしく感じました。

ご家族からのアンケートに「病院に来たくても来れずにやっと来れた。」「こんな会はないかと思っていたので呼ばれてうれしかった」「積年の思いが吹っ切れた気がします」「これからの人生も力強く生きていきます」「入院中にきめ細かくケアしていただいた事に感激しています」など、参加されたご家族から私達も元気の出る感想をたくさん頂き、また、新たに皆で力を合わせて患者様、ご家族の支援をしていきたいと感じた一日になりました。

## 「地域包括ケア病棟」のご紹介



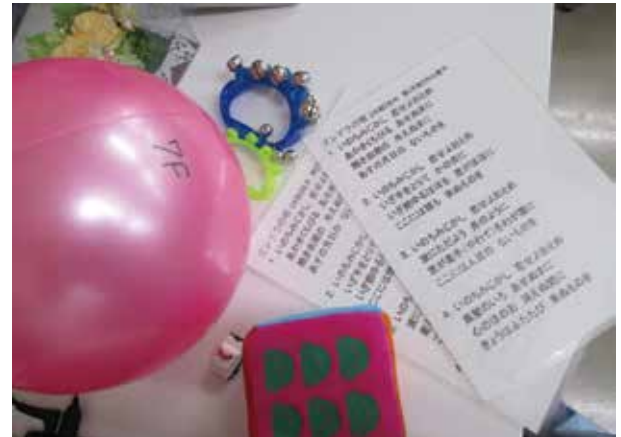
地域包括ケア病棟 師長 横山 美枝子

2025年の超高齢化社会の到来に備え、厚生労働省が地域包括ケアシステム概念をまとめ、導入を進める中、当院でも地域包括ケア病棟を開設し、2年が経過しました。

「地域包括ケア病棟」は、在宅で生活するために、患者様やご家族が安心して退院出来るようにお手伝いすることを目的とした病棟です。手術や検査、治療が終了した後、在宅や介護施設に復帰することに不安がある患者様に対して、入院療養を継続し、在宅復帰に向けて準備を行っています。また、退院後患者様に介護が必要な場合でも、可能な限り住み慣れた自宅で自立した生活が送れるように取り組んでいます。

まず、当病棟では、主治医をはじめ、看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種が協力し、患者様の在宅復帰に向けた準備や相談を行い、退院前にはスタッフ、在宅支援スタッフと一緒にカンファレンスを開催しています。また、必要に応じて、スタッフが患者様のご自宅に訪問し、自宅での生活をより具体的に想定した支援を行っています。

次に、患者様が、入院中に身体機能や認知機能の低下を来すことがないように、ADL拡大を



図り、セルフケア能力の向上に着目したケア介入を行っています。それぞれの受け持ち看護師が、患者様の食事・内服・社会資源などの状況を把握し多職種と連携を図っています。また、病棟内ではレクリエーションや集団リハビリテーション、院内デイなどを導入しており、集団リハビリテーションでは、風船バレーやしりとり、健康体操などを行っています。院内デイは毎週土曜日に開催し、童謡や歌謡曲を歌ったり、イベントの飾り付けを患者様と行い楽しい時間を過ごしています。今後は、更に院内デイの充実を図り、患者様の日常生活リズムを整え、楽しく、生き活きとした毎日が送れるように取り組んでいきたいと考えています。

活動報告

# 活動報告 第一回地域連携委員会主催研修



地域医療連携委員会主催の研修会が、平成29年1月6日金曜日17時30分より鹿児島市医師会病院職員対象に開催されました。

講師は、産業医科大学の松田晋哉教授で、「医療の動向と病院機能の方向性に関して」というテーマでお願いしました。鹿児島市内での当院の診療状況等の詳細なデータをもとに、鹿児島医療圏での問題点や病院機能、人口減少による疾病構造の変化などを踏まえた講演内容でした。医師会病院には、地区医師会会員の支援を行って頂き、プライマリケアの役割を果たしてほしいと講演の最後を締めくくられました。

院内の参加者は160名と、多くの職員参加を頂き、アンケート結果は以下の通りです。

診療部に関しては、100%が理解できたと答えており以下のご意見を頂きました。

- ・立ち位置の理解が進んだ。
- ・地域医療の現状・将来について理解できた。
- ・スピードが少し早かった、残念。
- ・具体的な話が多かった。

- ・分かりやすい言葉、語りで理解しやすかった。
- ・今後の医師会病院の方向性が理解できた。
- ・医療連携についてよく理解しました。
- ・医師会病院の方向性について、いい suggest が得られた。

全体での理解度をみると、患者の退院前の多職種カンファレンスに参加している職種の理解度が高い傾向にありました。

全体

出席者数 (人)	回答者数 (人)	回答率 (%)
160	96	60

全体

研修理解度 (選択数)		
理解出来た	どちらでもない	理解出来なかった
75%	15%	10%

全体

今後の活動に役立つか (選択数)		
役に立つ	どちらでもない	役に立たない
72%	23%	5%



## 退院支援検討会・研修会活動報告



医療連携・相談室主任 宮内香織

平成28年度より退院支援看護師が各病棟に配置され、病棟での退院支援の中心的立場を担う

べく活動してきました。本年は個々の退院支援に関する知識向上を目標に、退院支援検討会を年6回実施し、外部講師を迎えての研修会を年3回実施しました。院外からも訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなど多数参加いただき、事例を通してグループワークを行いました。患者様を病院から地域に繋ぐにはどのような支援が必要なのか、お互いの立場から活発な意見交換ができ、とても充実した研修会となりました。今後も、地域を支える在宅スタッフとの顔の見える関係づくりに努め、シームレスな連携を目指し活動をしていきたいと思ひます。

### 第1回

の研修会は、うえの内科・循環器内科クリニックの上野博史先生を招き「今なぜ在宅医療なのか？」についてご講演いただきました。在宅医の役割や実状について学ぶ事ができました。



### 第2回

の研修会は、ひさまつクリニックの社会福祉士岩元香菜子先生を招き、「介護に関するお金のはなし」について事例を通して分かりやすくご講演いただきました。



「生活者」の視点で対象をとらえた在宅スタッフの意見は、とても新鮮で勉強になりました。

## 活動報告

# ランチミーティングの報告



医療連携・相談室 社会福祉士・精神保健福祉士  
宮脇 公美子

平成29年1月18日、地域との連携強化を目的として、医療連携・相談室主催のランチミーティングを開催いたしました。第1回目は、昨年、データ上、多くご紹介頂いた急性期病院8医療機関のソーシャルワーカー・看護師の皆様に参加して頂きました。

転院調整（地域包括ケア病棟・緩和ケア病棟）に関するご要望・ご意見を伺い、入院受入れ、転院調整がスムーズに行えるよう情報交換を行い、日常の業務を行う上で、困っていることや悩みについて話し合いました。

「総合医が多いと、疾病を考えずに紹介できるのですが・・・」「新しい試みで非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。」等、貴重なご意見



を頂き、ありがとうございました。今後の業務に、いかしていきたいと考えております。次回のランチミーティングも計画しており、定期的に参加して頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

### 【基本理念】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

### 【基本方針】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

## 新任医師紹介



### 婦人科 部長待遇

<プロフィール>

(H 29.1.1 ~)

名前 **濱地 勝弘**  
出身県 福岡県  
出身大学 京都府立医科大学  
前勤務先 さがら女性クリニック  
趣味 湯めぐり、ドライブ、  
ダイエット

平成29年1月1日より勤務しております。

婦人科良性疾患に対する内視鏡下手術や骨盤臓器脱手術に取り組んでいきたいと考えております。宜しくお願い致します。



### 麻酔科 医師

<プロフィール>

(H 28.7.1 ~)

名前 **青木 利奈**  
出身県 鹿児島県  
出身大学 長崎大学  
前勤務先 鹿児島大学病院  
趣味 お酒のおつまみ作り

平成12年に半年間お世話になって以来、16年ぶりの医師会病院勤務となりました。できることを精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 新入職員紹介



### 理学療法士

<プロフィール>

(H 28.7.1 ~)

名前 **石田 琢也**  
所属 リハビリテーション室  
(理学療法士)  
趣味 サッカー、魚釣り

平成28年10月1日から勤務させて頂いています理学療法士の石田琢也です。前職は整形外科に勤務していました。理学療法士として多くのことを学び、患者様により良いリハビリテーションを提供できる様日々努力していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。



### 言語聴覚士

<プロフィール>

(H 29.1.1 ~)

名前 **竹迫 芳乃**  
所属 リハビリテーション室  
(言語聴覚士)  
趣味 読書(マンガ含む)、カラオケ

1月からリハビリテーション室で言語聴覚士として勤めさせて頂いている竹迫芳乃と申します。前職は吹上の病院、老健に勤めていました。まだまだ不慣れなことも多く、力不足な点もあるかと思いますが、皆さんと一緒に少しでも早く患者様の助けになれるようがんばりますのでよろしくお願い致します。



### 作業療法士

<プロフィール>

(H 28.7.29 ~)

名前 **川上 茂成**  
所属 リハビリテーション室  
(作業療法士)  
趣味 歴史関係、サイクリング

正職員としての自覚を持ち、職責を果たしていきたい。



### 内視鏡技師

<プロフィール>

(H 28.7.1 ~)

名前 **中別府 智美**  
所属 内視鏡室(内視鏡技師)  
趣味 写真、釣り

入職して半年、霧島市からの通勤も少しは慣れてきました。内視鏡技師としての経験があまりなく、ここで一から勉強したいと思いい入職させて頂きました。毎日が初めて経験することばかりであっという間に半年が過ぎたような気がします。これからも常に新しい技術や知識を勉強し患者様に提供できるよう努力していきます。よろしくお願いいたします。

## アクセスのご案内



### 車でのアクセス

鹿児島空港から 車で60分  
 鹿児島ICから 車で15分  
 鹿児島中央駅から 車で15分  
 天文館から 車で15分

駐車場あり



### バスでのアクセス

**【県庁前】**バス停下車/徒歩1分

（路線・時刻はお問い合わせください。）

鹿児島市交通局 ☎099-257-2111  
 鹿児島交通㈱ ☎099-247-2333  
 南国交通㈱ ☎099-255-2141



### 鹿児島市電をご利用の場合

**【郡元】**電車下車/徒歩10分

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.28

創刊日：平成17年8月10日

発行月：平成29年2月

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 園田 健

担当：医療連携・相談室

TEL：099-254-1125（代表）

FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）

ホームページ：http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。